

## 会社情報・株主メモ (2023年9月30日現在)

### 会社の概況

商号 株式会社ミマキエンジニアリング  
 設立 1975年8月  
 資本金 43億5,746万円  
 事業内容 コンピュータ周辺機器及び  
 ソフトウェアの開発・製造・販売  
 従業員 連結2,057名/単体862名

### 役員一覧

代表取締役社長 池田 和明  
 専務取締役 竹内 和行  
 常務取締役 清水 浩司  
 取締役 羽野 康博  
 取締役 牧野 成昭  
 取締役 古平 武史  
 取締役 森澤 修二郎  
 社外取締役(常勤監査等委員) 善野 洋  
 取締役(監査等委員) 田中 規幸  
 社外取締役(監査等委員) 田中 誠  
 社外取締役(監査等委員) 荒井 寿光  
 社外取締役(監査等委員) 蓑毛 誠子  
 社外取締役 沼田 俊介

### 会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

### 株主メモ

事業年度 4月1日から3月31日まで  
 定時株主総会 毎事業年度終了後3ヶ月以内  
 基準日 定時株主総会 3月31日  
 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日  
 その他必要があるときは、あらかじめ  
 公告して定めた日  
 単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 東京都府中市日鋼町1-1  
 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 公告方法 当社ホームページ(<https://ir.mimaki.com/>)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。  
 上場金融商品取引所 東京証券取引所プライム市場  
 証券コード 6638

#### (ご注意)

- 株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

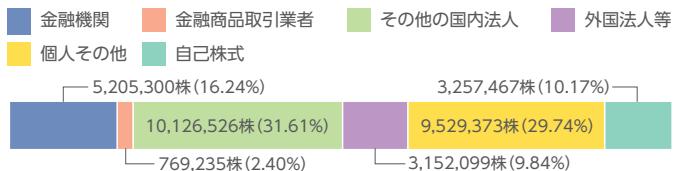
### 株式の状況

発行可能株式総数 128,160,000株  
 発行済株式の総数 32,040,000株  
 株主数 5,024名

### 大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
株式会社池田ホールディングス	5,064,000	17.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,096,600	10.76
有限会社田中企画	2,230,000	7.75
田中 規幸	2,035,000	7.07
東京中小企業投資育成株式会社	1,529,000	5.31
ミマキエンジニアリング従業員持株会	1,171,600	4.07
株式会社日本カストディ銀行	860,300	2.99
株式会社八十二銀行	840,000	2.92
アデキパートナーズ株式会社	833,200	2.90
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	459,000	1.59

### 所有者別状況



### ホームページのご案内

当社のホームページでは、IR情報やプレスリリースなどの最新の情報に加え、当社の事業概要、製品、サービスをより深くご理解いただくためのコンテンツをご覧いただけます。ぜひアクセスしてください。



携帯電話やスマートフォンをお使いの方は右のQRコードからもアクセスできます。

アクセスはこちら  
<https://ir.mimaki.com/>

公式SNSはこちら

Facebook <https://www.facebook.com/mimakiengineering/>  
 YouTube <https://www.youtube.com/user/MimakiPR/videos>  
 Instagram [https://www.instagram.com/mimaki\\_japan/](https://www.instagram.com/mimaki_japan/)

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



# BUSINESS REPORT

## 2023.9

2024年3月期 第49期中間報告書  
 2023.4.1-2023.9.30

特集

Mimaki

サステナビリティ

ミマキのソリューションで貢献する  
 サステナビリティ

ネオクロマト・プロセス  
**Neochromato**  
 Process

当社製品・技術を通して  
 お客様のサステナブルな事業を  
 支えるソリューションを提供。

詳細はP.9

**Mimaki**  
 株式会社 ミマキエンジニアリング



私たちは、独自のラスタ技術<sup>(インクジェット等)</sup>とベクター市場志向の製品開発により、デジタル・オンデマンド

技術<sup>(カッティング等)</sup>を柱とした生産のマーケットリーダーを目指しています

経営ビジョン

- 1 独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「開発型企業」を目指します。
- 2 顧客に満足いただける製品を素早く提供する小回りの利いた会社を目指します。
- 3 市場に常に「新しさと違い」を提供するイノベーターを目指します。
- 4 各人が持っている個性・能力を一杯発揮できる企業風土を目指します。

ミマキが目指す組織と企業像

イノベーターの集団であり続けるために、そして各人が持っている個性、能力を一杯発揮し、マーケットの潜在ニーズを素早く捉え解決するために、当社では技術・営業・生産・管理・経営企画の5本部体制のもと、小集団によるグループ別独立採算制を追求するGIPS経営を行っています。

GIPS (Group Independent Profitability management System) では、各グループが明確な役割と責任を持ち、それぞれがあたかも町工場であるかのように自主的に活動します。

そして各グループの活動成果としての付加価値を明確にし、各グループにおいてリーダーを中心に自部門の採算向上を実現するため、各グループのメンバー全員が問題点を共有し、その解決にあたります。これらを通し社員全員が経営に参加し、一人ひとりが採算意識を持ち、信頼をベースにした葡萄の房のような小さな果実の集合体にしていきたいと考えています。

代表取締役社長 池田 和明



## トータルソリューションの提供により、 導入から成果物の品質までサポート

当社グループは、産業用インクジェットプリンタ、カッティングプロッタ、インク等の開発・製造・販売・保守サービスを一貫して行う開発型企业です。独自のコア技術を駆使し、デジタルトランスフォーメーションのさらなる進展を推し進め、導入から成果物の品質までをサポートするソリューションプロバイダーとしての役割を担ってまいります。

### ソリューションプロバイダー

前工程・プリント/カット/コート・後工程の一貫システムによるトータルソリューションを提供



### 社会・顧客ニーズ

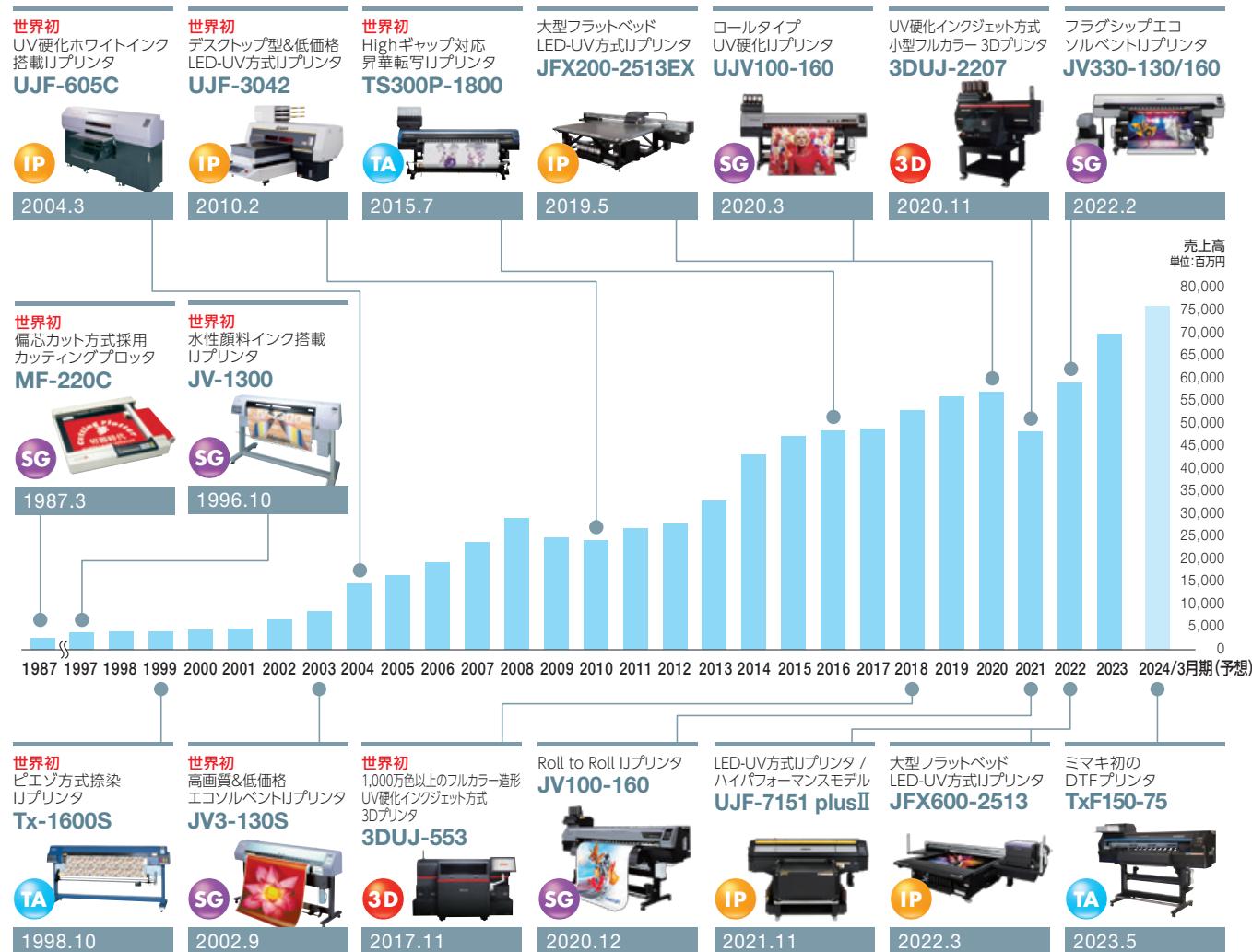
- 1 少量多品種生産
- 2 生產品の高付加価値化
- 3 ランニングコスト低減
- 4 リードタイム短縮
- 5 在庫レス
- 6 環境経営
- 7 無人化・省人化
- 8 eコマース環境構築(小売業)



## Mimakiのコア技術

## Mimakiの歩みはイノベーションの歴史

デジタル・オンデマンド生産のマーケットリーダーとして、多様なニーズを迅速かつ的確に捉え、そこに狙いを絞った製品を素早く提供することで、今後も新たな市場と顧客を創出してまいります。



## 3つの販売市場に向けた製品提供とFA事業の展開

各市場のプレーヤーにとって最適な製品を常に提供し、各市場の拡大を推進。

### SG サイングラフィックス Sign Graphics

大型ポスター、カーラッピング、のぼり旗、表示板といった広告・看板等、街を彩るビジネスシーンで活躍している当社の主力製品群。



#### 主なプリント素材

- ・塩ビシート
- ・バナーシート
- ・ウィンドウフィルムなど

### TA テキスタイル・アパレル Textile & Apparel

裁断・縫製加工前の生地や既製服などファストファッション・スポーツウェア業界のほか、ファニチャー業界で拡大している製品群。



#### 主なプリント素材

- ・ポリエステル
- ・レーヨン
- ・綿
- ・絹
- ・合成皮革など

### IP インダストリアルプロダクト Industrial Products

自動車の計器パネルや家電類の操作パネル等の工業製品のほか、一般消費者向けのギフトやノベルティ、オーダーグッズ等の生産現場等で使用されている製品群。



#### 主なプリント素材

- ・プラスチック
- ・アクリル
- ・ガラス
- ・金属
- ・木材など

### 3D 3Dプリンタ 3D Printer

1,000万色以上のフルカラー造形から、高さ1.8mまでの超大型造形まで3Dプリンタによりプロダクトデザインやフィギュア、立体看板で活用されている製品群。



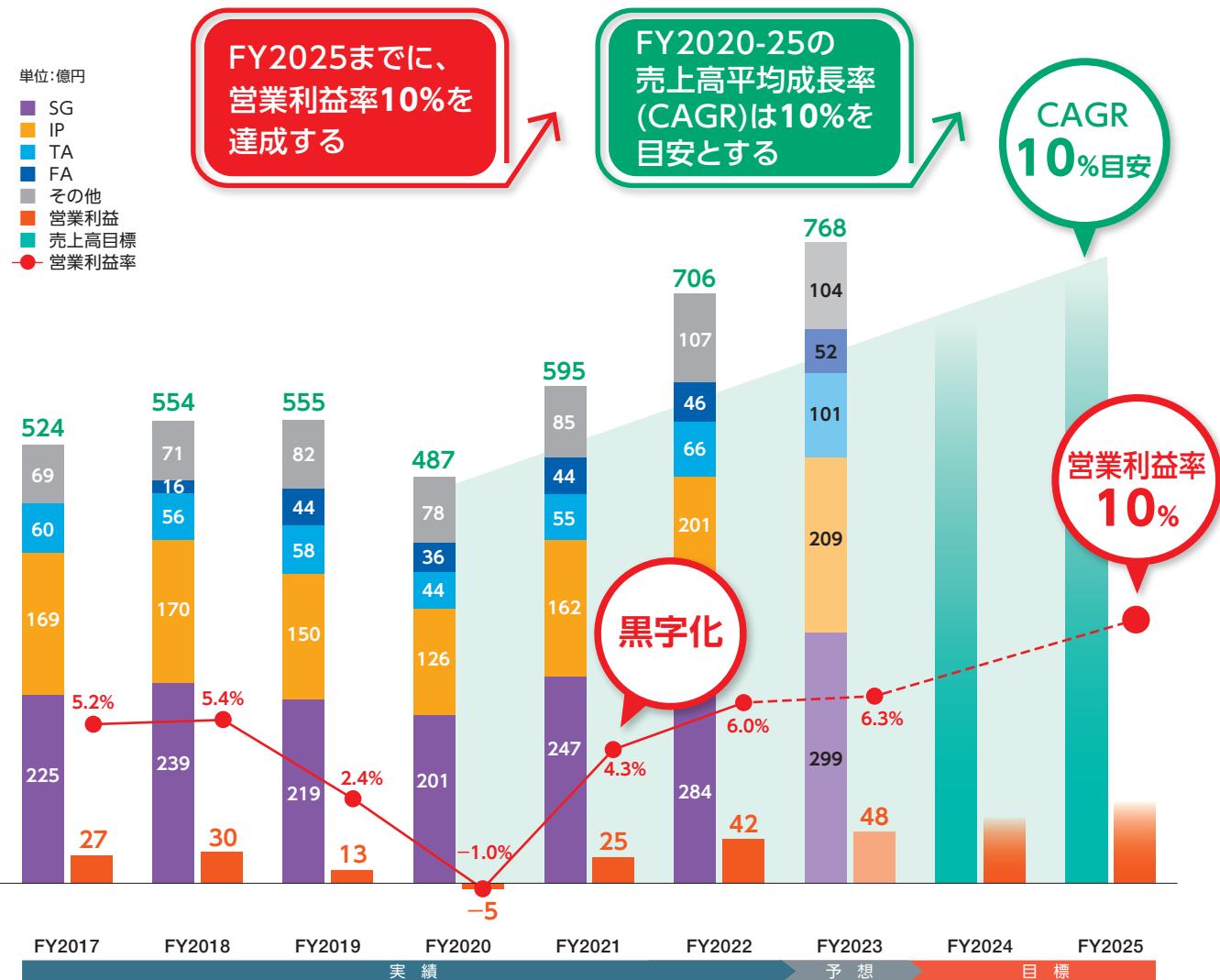
### FA ファクトリーオートメーション Factory Automation

ベクター技術、メカトロニクス技術をもとに5つの事業を展開。オンデマンド型のデジタルコーティングマシンで印刷からコーティングまで生産工程の全自動化にも対応。



# 中長期成長戦略 Mimaki V10

当社は中長期成長戦略「Mimaki V10」で定めた目標：2025年度までに営業利益率10%の達成に向けた施策を着実に実行し、業績のV字回復を確実なものいたします。



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。  
ここに、第49期第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)の事業の状況について、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 池田和明

## 2024年3月期第2四半期の業績について

当第2四半期連結累計期間(以下、上期)の業績は、売上高354億37百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益23億31百万円(同23.7%増)と、増収・増益となりました。

上期の世界経済は、高水準のインフレの継続や、各国中央銀行や政府による金融政策などの影響が続くなかで、全般的に不透明な状況が継続しました。北米では、足元で個人消費を中心に景気が堅調に推移しましたが、欧州では、ウクライナ侵攻の長期化を背景に景気の停滞が継続しました。

このような環境のなか、当社グループでは中長期成長戦略「Mimaki V10」で定めた重点施策に基づき、新製品の市場投入と販売拡大、市場環境や顧客ニーズの急激な変化を見据えた事業展開、収益性向上に向けた基盤構築を続けてまいりました。上期においては、イタリア・ミラノで4年に1回開催される世界最大のテキスタイル・アパレル市場向け機器展示会ITMAでの新製品・新技術の発表、経済成長が著しいベトナムへの販売子会社の設立、SG(サイングラフィックス)市場向けUVプリンタ新製品UJV100-160Plus及びUCJV330 Seriesの世界同時発売の発表、国内で17番目の営業拠点となる沖縄営業所の開設など、今後の販売拡大に向けた戦略を着実に推進してまいりました。

上期の売上高は、全般に為替の円安に伴うプラス影響もあり、増収となりました。TA(テキスタイル・アパレル)市場向けは、今期市場投入したDTF(Direct to Film)機のTxF150-75が好調で販売が大幅に伸長し、SG市場向けは、本体の販売が減少したもののインクの販売が堅調に推移しました。IP(インダストリアルプロダクツ)市場向けは、新製品の販売が大幅に拡大した前年同期と同水準の販売を確保した一方で、FA(ファクトリーオートメーション)事業は、高水準な需要があった前年同期比で販売が減少しました。利益面では、前期に調達した高コスト部材を使用した製品の販売が継続しましたが、輸送コストの減少に加え、販売価格見直しを進めてきた効果もあり、売上原価率は改善しました。販管費は、今後の新技術・新製品開発に向けた研究開発費や、人件費及びグローバルでの展示会への積極的な出展等の営業活動の活発化に伴う費用が増加しましたが、売上高比率の増加は最小限に抑制しました。これらに加え、為替のプラス効果もあり、前年同期比で増益となりました。

## 2024年3月期通期の連結業績見通しについて

2024年3月期通期の連結業績予想につきましては、売上高768億円(前期比8.8%増)、営業利益48億円(同14.1%増)を見込んでいます。下期は、インフレや高金利の継続に加え、ウクライナ情勢やパレスチナ問題等の地政学的なリスクが増大していることから、世界的な景気減速への懸念が増し、厳しい経営環境が続くものと想定しています。

当社においては、売上高では、新製品の好調な販売が継続するTAに加え、下期はSG及びTAで新製品を投入するとともに、引き続きミニ展戦略の活発化等営業活動の強化にも取り組む一方で、世界的な景気減速に伴う需要の減少による影響が見込まれます。利益面では、全般に不透明な要素が多いことを踏まえ、下期は期初の予想並みを見込みますが、通期予想は上期の進捗を加味いたします。併せて、為替の前提レートを円安方向に見直します。以上の状況を踏まえ、連結業績見通しを策定しました。

## 株主様へのメッセージ

当社グループでは、中長期成長戦略「Mimaki V10」に基づき、売上高を成長させながら2025年度までに営業利益率10%の達成に向け取り組んでおります。下期も、「創造する」と定めたグループ経営方針に基づき、不透明な経営環境の下であっても新しい価値を生み出し、革新的なアイデアや方法を取り入れて、より持続可能な未来を創り出すことを目指して、全社をあげて取り組んでまいります。

なお、株主還元につきましては、今後の業績見通し及び安定的かつ継続的な株主還元方針等を総合的に勘案し、2024年3月期の中間配当は1株当たり10円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# デジタルで環境に優しい “これから”のテキスタイル生産

現在、世界の捺染製品(テキスタイル生産)の大部分は一部の生産国に集約され、アナログ印刷で生産されています。アナログ捺染は生産プロセスが長期にわたり、消費国への出荷リードタイムが長くなります。そのため在庫を多く保持する必要があり、売れ残りのリスクと廃棄処分コストや環境負荷が大きく、またインクの調合や印刷版の洗浄のため化学物質に触れる頻度が高く、生産作業には安全性の課題が残ります。

一方、近年テキスタイル業界及びアパレル業界ではデザインや色使いの多様化により、デジタル捺染技術が求められています。工程が少なく設備規模も比較的小型なため、需要に合わせ必要なものを必要な分だけ消費地近くで生産することで、リードタイム短縮による在庫リスクの減少が期待できます。またアナログ印刷で必要とされる印刷版の洗浄廃水がなくなることも、環境負荷の削減や安全性の向上に大きく貢献します。



## 製品 × サステナビリティ 「Tiger600-1800TS」

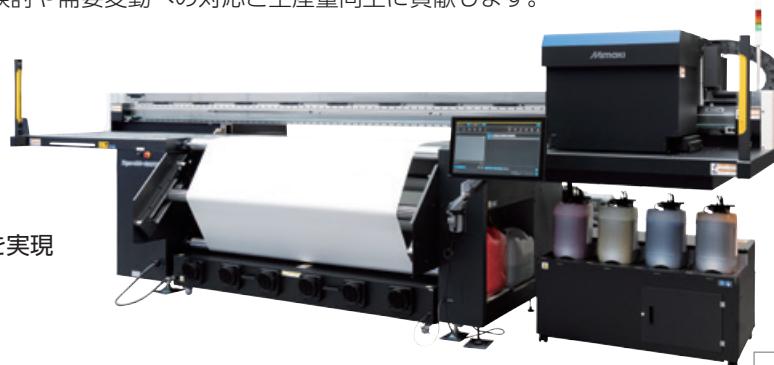
Mimaki × サステナビリティ  
(特設サイト)

テキスタイル向けRoll to Roll方式昇華転写用インクジェットプリンタ「Tiger600-1800TS」を、2023年6月に開催されたITMA(開催地/イタリア・ミラノ)で世界初披露し、2023年秋から販売を開始しました。生産性当社最速の昇華転写プリンタにより捺染市場のデジタル化を推進してまいります。

新たに採用した高速駆動のプリントヘッドと当社独自の画質技術を搭載し、巻取り機構のレイアウト変更による装置の省スペース化(約半分)により、複数台導入の検討や需要変動への対応と生産量向上に貢献します。

### Tiger600-1800TSの特長

- ✓ 最大印刷速度550m/h
- ✓ 進化した転写紙の搬送メカニズム:  
薄紙転写紙でも安定したプリントを実現
- ✓ 省スペースと軽量により  
設置場所の制約を緩和



**Tiger600-1800TS** **高生産** 製品の詳細はこちらをご覧ください>>>

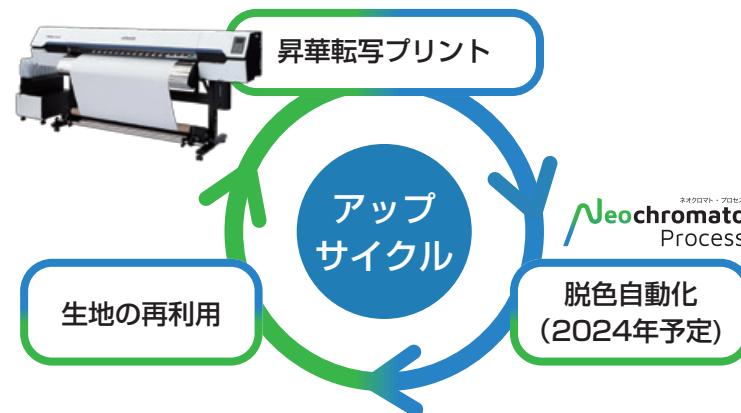
## 技術 × サステナビリティ 「ネオクロマト・プロセス」

「ネオクロマト・プロセス」は、捺染ポリエステル生地から昇華転写インクを脱色し生地を再利用する技術です。色や柄の変更による捺染ポリエステルの再利用により、焼却処分を不要にするのみでなく、リサイクルのための必要なエネルギーの削減にも貢献します。

またインクや脱色用の溶剤を吸収した吸い取り紙(吸収材)は燃えるゴミとして処理でき、水の利用や排水による水質汚染を最小限に抑えることができます。

### ネオクロマト・プロセスの特長

- ✓ 昇華染料(昇華転写)によって染色したポリエステル生地であれば脱色が可能
- ✓ 再生利用も不要な循環再利用(アップサイクル/創造的再利用)
- ✓ アップサイクルによりCO<sub>2</sub>排出量95%削減し工業廃水も限りなくゼロに



## Neochromato Process

ネオクロマト・プロセス



### 展示会出展レポート これらの製品/技術を展示会でお披露目しました

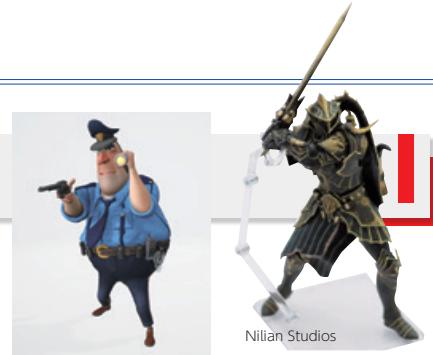
繊維機械のオリンピックとも言える、ITMA 2023(6月 開催地/イタリア・ミラノ:以下ITMA)が盛況のうちに閉幕。当社からは先述の「Tiger600-1800TS」のお披露目をはじめ、捺染顔料転写プリントシステム、ネオクロマト・プロセスを出展。プレスカンファレンスでは特にネオクロマト・プロセスの注目が高く、繊維市場におけるサステナビリティへの期待を感じる結果となりました。ITMAでは持続可能性とデジタル化に向かう繊維産業にとって大きな転換点となり、持続可能な素材や環境に優しいプロセスから、廃棄物の削減や責任ある生産に至るまで、持続可能性が求められる未来にとって不可欠な展示会となりました。



3D

### Autodesk社と協力 日本を含む世界4ヶ国の3Dプリンタ展へ

世界的なシェアを誇るCADソフトメーカーAutodesk, Inc.(本社/アメリカ、以下Autodesk社)の協力により、2023年5月から6月にかけて日本を含む世界4ヶ国で開催された3Dプリンタの展示会に出展。各展示会では、Autodesk社の3D表現技術と当社のフルカラー3Dプリント技術を用いて創り出す3Dデザイン、工学、エンターテインメント3Dプリントモデルを具現化する方法をお客様に提案しました。



AUTODESK × MIMAKI

Mimaki

### 信州大学リスキリング教育短期プログラムを導入

国立大学法人信州大学(長野県松本市、学長:中村宗一郎、以下信州大学)は、社会人のための教育プログラムとして、企業等を対象とした「リスキリング教育短期プログラム」を新たに開設、当社は本制度の第一号として2023年3月に当プログラム導入についての契約を締結。企業側のニーズに合わせ、研修内容をカスタマイズできるオーダーメイド型教育研修プログラムとなり、信州大学の教員が教育研究上の専門知識を提供することで、地域高度人材の育成に貢献することを目指し、2023年6月より信州大学工学部の教授による、当社へ向けた社員研修用の講座が順次開講されています。



Mimaki

### ベトナム社会主義共和国に販売子会社を設立

ベトナム社会主義共和国は、近年急速な経済成長を遂げており、SG市場向け、IP市場向け、TA市場向け製品の各々で、さらなる需要の拡大を期待。設立した販売子会社を中心となり、同国における販売店ネットワークを強化するとともに、販売店のサービストレーニングやユーザーサポートを充実させることにより、当社製品の販売拡大と、顧客満足度の向上を図ってまいります。



Mimaki

### 国内17番目となる沖縄営業所を開設

これまで沖縄県の販売・サービスは当社の福岡営業所が担当しておりましたが、この度日本国内17番目の営業拠点としてショールームを備えた沖縄営業所を開設し、お客様の課題解決及び保守サービスのスペシャリストを現場に配置。当地域に密着した専門的かつ細やかなソリューション提案及びお客様への保守サービスを行い、さらなる顧客満足度の向上を目指します。



当社は、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)で定めた17の目標のうち、インクジェット技術で7つの項目に貢献してまいります



▶ 当社グループは、サステナビリティ対応の一環として、資源循環型の経営・技術に鋭意取り組んでいます  
これまでも独自のインクジェット技術で、社会・環境ニーズに貢献するデジタル・オンデマンドプリント事業の拡大を推進してまいりました。今後も、デジタルトランスフォーメーション(バリューチェーンを含めた新たな付加価値につながるデジタル化)を的確に捕捉し、さらに深化すると思われる無人化・省人化、高速化・高品質化、無水捺染等の高度な付加価値につながる社会・環境ニーズにいち早く対応できるよう取り組んでまいります。

▶ デジタル・オンデマンドプリントの推進で、持続可能な社会の実現へ  
当社は、独自のラスタ技術とベクター技術を駆使して、デジタル・オンデマンドプリントのさらなる進展を推し進めてまいります。

<b>節水</b> 染色による淡水汚染をインクジェットプリントで解消、昇華転写プリントで節水を可能に	<b>物流フローの削減</b> デジタル・オンデマンドプリントで物流フローを短縮
<b>在庫ロスの減少</b> インクジェットプリントでロスを最小限に	<b>生産設備の効率化</b> インクジェットプリントで環境に配慮した設備作りを可能に
<b>環境に優しいインクの開発・製造</b> 環境に優しく、オペレーターの健康負荷の軽減にも配慮したエコロジーインクを開発	<b>環境へ配慮したインクカートリッジ</b> 使用済みインクカートリッジ類の無償回収・再利用、エコインクカートリッジの採用

**MIMAKI × SDGs これまでの取り組み**

**2023日本パッケージングコンテストで工業包装部門賞を受賞**  
 ~信州上田市のコムパックシステムと共同製品化。38トン/年のCO<sub>2</sub>排出削減~

段ボールなどの包装用紙の製造を手掛けるコムパックシステム株式会社(本社/長野県上田市、代表取締役社長/鈴木 由彦)と当社が共同で製品化した紙製インクカートリッジが、公益社団法人日本包装技術協会が主催する「2023日本パッケージングコンテスト」において、「サステナビリティ対応! 紙製インクカートリッジ」をテーマに工業包装部門賞を受賞。インクカートリッジの材料をプラスチックから紙に置き換えることで、プラスチック削減率(当社基準)において68%を達成し、年間で29.2トンのプラスチック削減及び38トンのCO<sub>2</sub>排出量削減\*により、脱炭素社会の実現に貢献します。  
 \*日本国内の販売実績より算出

### 国内拠点

本社・牧家工場  
長野県東御市滋野乙2182番地3

加沢工場  
長野県東御市加沢1333番地3

丸子工場  
長野県上田市御嶽堂2535

長野開発センター  
長野県長野市北長池520番地1

東京開発センター  
東京都品川区北品川5丁目9番地41  
TKB御殿山ビル

八王子開発センター  
東京都八王子市北野町593番地6

JPデモセンター  
東京都品川区北品川5-5-25  
Sumビル 2・3階

営業拠点  
東京、大阪、札幌、仙台、長野、横浜、さいたま、西東京、北関東(宇都宮)、金沢、名古屋、京都、神戸、広島、四国(高松)、福岡、沖縄

### グループ子会社

● 子会社の主要な支店

大連アル法設計有限公司 (中国)

上海御牧貿易有限公司 (中国)

アルファーデザイン株式会社 (日本)

株式会社アルファシステムズ (日本)

株式会社砺波製作所 (日本)

株式会社ミマキプレジジョン (日本)

株式会社マイクロテック (日本)

御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司 (中国)

株式会社楽日 (日本)

MIMAKI VIETNAM CO.,LTD. (ベトナム)

株式会社グラフィッククリエーション (日本)

MIMAKI USA, INC. (アメリカ)

Mimaki Lithuania, UAB (リトアニア)

MIMAKI EUROPE B.V. (オランダ)

Mimaki Bompan Textile S.r.l (イタリア)

Mimaki Deutschland GmbH (ドイツ)

Mimaki La Meccanica S.p.A (イタリア)

MIMAKI EURASIA DIGITAL BASKI TEKNOLOJILERI PAZARLAMA VE TICARET LIMITED SIRKETI (トルコ)

MIMAKI (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)

MIMAKI AUSTRALIA PTY LTD (オーストラリア)

MIMAKI INDIA PRIVATE LIMITED (インド)

MIMAKI SINGAPORE PTE. LTD. (シンガポール)

PT.MIMAKI INDONESIA (インドネシア)

MIMAKI BRASIL COMERCIO E IMPORTACAO LTDA (ブラジル)

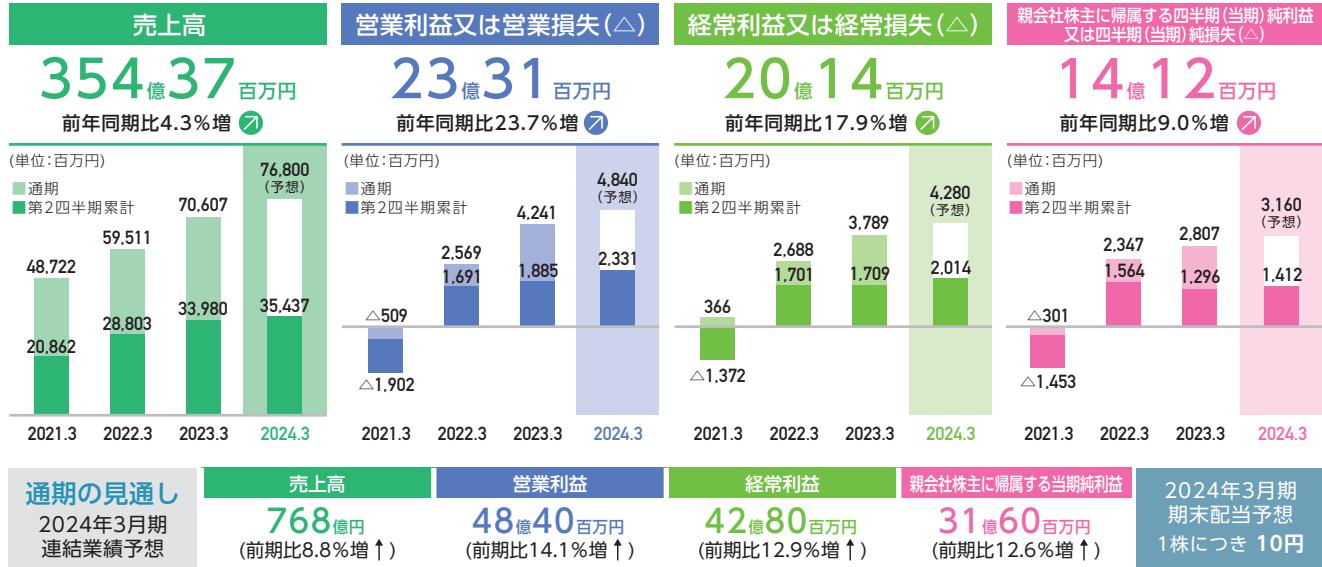
台湾御牧股份有限公司 (台湾)

### 沿革

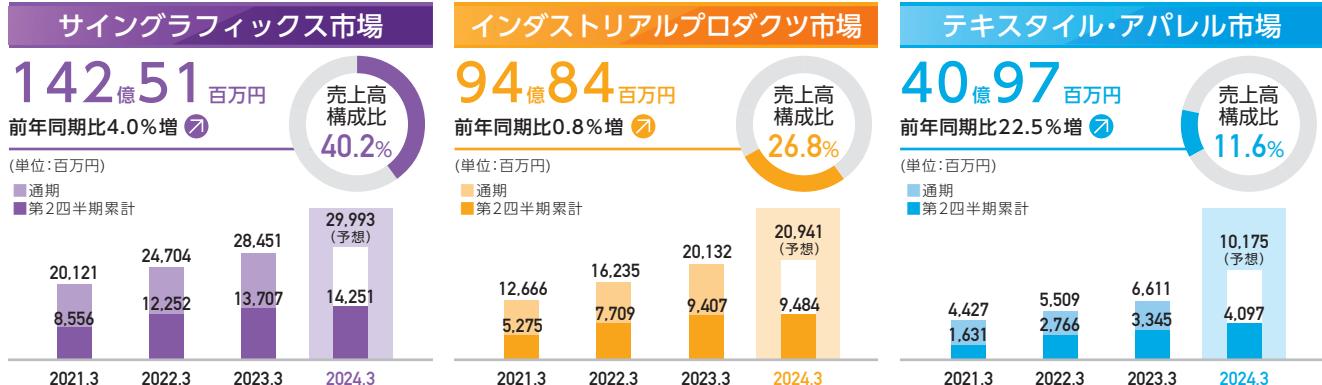
1975年	8月	(有)ミマキエンジニアリング設立	2004年	4月	(株)ミマキプレジジョン設立	2009年	1月	ISO14001認証(審査登録)	2016年	4月	MIMAKI EURASIA設立	2022年	3月	(株)マイクロテックを子会社化
1981年	5月	(株)ミマキエンジニアリングに改組	4月	4月	MIMAKI EUROPE設立	6月	6月	上海御牧貿易有限公司設立	7月	7月	JPデモセンター開設	4月	4月	東京証券取引所プライム市場に移行
1983年	12月	OEM向けA2フラットベッドペンプロッタRY-1003開発開始	9月	9月	長野県東御市に牧家工場取得	8月	8月	平湖御牧貿易有限公司設立	7月	7月	ラボセンター開設(TA・IP)	6月	6月	MIMAKI VIETNAM設立
1985年	2月	「北斎」の商標で、A2フラットペンプロッタ販売開始	2005年	4月	テクニカルコールセンター開設	11月	11月	MIMAKI INDONESIA設立	8月	8月	Mimaki La Meccanicaを子会社化	7月	7月	沖縄営業所開設
1986年	3月	加沢工場操業開始	2006年	4月	(株)グラフィッククリエーションを子会社化	4月	4月	MIMAKI AUSTRALIA設立	10月	10月	Mimaki Lithuania設立			
1995年	7月	台湾御牧股份有限公司設立	8月	8月	本社を長野県東御市滋野乙に移転	4月	4月	MIMAKI SINGAPORE設立	2月	2月	Mimaki Bompan設立			
1999年	1月	ISO 9001認証(審査登録)	2007年	3月	ジャスダック証券取引所上場	7月	7月	MIMAKI INDIA設立	6月	6月	アルファーデザイン(株)を子会社化			
	9月	MIMAKI USA設立	12月	12月	御牧噴墨打印科技(浙江)有限公司設立	3月	3月	東京証券取引所市場第一部に市場変更	11月	11月	(株)楽日を子会社化			
2003年	10月	長野開発センター開設	2008年	7月	Mimaki Deutschlandを子会社化	5月	5月	八王子開発センター開設	3月	3月	MIMAKI (THAILAND)設立			
						7月	7月	滋野ショールームオープン						



連結業績ハイライト



市場別状況



本体でフラグシップモデルやエントリーモデルの販売が増加した一方で、既存モデルの販売が減少したものの、インクの販売が堅調に推移し、為替のプラス影響もあり増収となりました。

小型フラットベッド(以下、FB)機を中心に、新製品の販売が拡大した前年同期との比較で減少したものの、インクの販売増及び為替のプラス影響もあり、前年同期並となりました。

先進国を中心に、当期から投入した新製品が好調な販売となり、インクの販売も堅調に推移し、大幅な増収となりました。

エリア別状況

